

漢法苞徳塾資料	No. 054
区分	第10回夏期合宿塾長講話
タイトル	気の問題をめぐる
著者	八木素萌
作成日	

☆老・荘の思想を「気思想」と特徴づけられるか？

1. 『黄帝内経』の理解には「老・荘の思想」を知る必要がある、という点については論議の余地は無いことである。
2. 「老・荘の思想」を一言で言えば「気思想」という把握が、鍼灸界には在る。これは、漢法医学・とくに鍼灸医学が「気の医学」であるという認識=主張と（このような表現は過ちである）、極めて関係が深い。
3. 日本における東洋思想の研究の専門家たち、東洋哲学の研究者たちは、「老・荘の思想」を「気思想」として特徴付ける者は皆無である、東洋哲学の専門書や、東洋思想史の専門書の定評あるものを研究してみると良い。
4. 「無の思想である」「虚無の思想である」「一を体認し一に帰するの思想である」その他のように「一言で言えば」言えなくはないだろう。『黄帝内経』を正しく理解する為には「老・荘の思想」を知る必要があると言うのは、「一口」に捨象された思想ではなく、具体的な人間観の文言であり、疾病の把握であり、人の世界との関わりについての認識であり、等々のような現実的存在の場や局面での具体的な対応に貫徹されている思想である。寓話や比喩の非常に豊富な記述の中に貫かれている思想なのである。

☆漢法医学は「気の医学」として把握できるか？

1. 鍼灸医学は『黄帝内経』から『難経』を経て後代に繋がっている、また、湯液医学は『黄帝内経』から『傷寒論』を経て後代に経過して行っている。
2. 漢法=鍼灸医学を「気の医学」と特徴付けることは、その特徴を概括した約言としては適切ではない。
3. 施術の時に、「ヒビキ」があったと表現される場合に、「気が来た」と言うとか、切経の折に術者の手掌に感知される微妙な感覚が「気を感じる」と表現されたりしている。

この「気が来た」「気が来ている」「気を感じる」「〇〇にヒビキしている」などと言われる事柄が分かる人・そのような「ヒビキ」を自在に操作できる技術を持っている人、こういう人が鍼灸の施術者・鍼灸治療家として優れたものであると知られている。

4. 中医の鍼灸学では「得気」がなければ思うような効果が得られないと言う。これらの点から「気の医学」と言う表現は、的を射た表現のように思われ易いものがある。
5. 『黄帝内経』は漢法医学の原点を概括したものである、故にそれは出発点であり、基地であり、土台であり、設計図である事は自明なことである。その正しい理解の為には『黄帝内経』に色濃く投影している「老・荘の思想」について、それは「気の思想である」という、甚だしく誤った認識が在るので、これの克服が必要であること。
6. 鍼灸の臨床においては「気」が分かること・「気を自在に運用できる技術」を持っていることが求められている。この場合の「気」の差異を問題にする精密な観察や思考とは異なったものがある、むしろ、差異をこそ明解に把握する必要があり、問題にする必要がある。
7. 「気」を一色に見ると言う誤りに満ちた傾向が、「漢法医学は気の医学である」と特徴付ける結果になっていると言って良いだろう。

☆二十一世紀の医学として期待されているもの

1. 人は神に代われるのか？

N・ウィーナーの問題提起、ホキ族の神話の示唆しているもの、に共通している問い掛けである。N・ウィーナーはコンピューターの生みの親として『神・人・悪魔』を著述して、智の行き着く果ての不気味な姿を描き出した。ホキ族の伝説は、その酋長と部族の主だった人々を、国連と主要国へ「原爆を廃止しなければ地球は死に人々は滅亡する」と訴える行為に駆り立てている。まるで、滅亡の寸前まで経験して得た人類的な教訓を、部族の最も貴重な説話として、石彫された図を説明させるようにと、部族の歴史とともに神話的に長く、酋長（ホキは選出によって決めてきた）に伝承され続けたかのようなのである。それは、「地球の死」を避けるために、原子力を廃止して自然と同化して、謙虚に自然の恵みに養われながら、暮して行くことを説いているのである。ヒロシマ・ナガサキそしてビキニからスリーマイル・チェリノヴィイのように痛切な体験を重ねているのに、エネルギーのためにますます原子力への依存を増大させつゝある。現在の段階では、他の方法に較べて低いコストで発電できる事と、電力の便利さの故に、「放射能」「死の灰」を蓄積する道を進み続けている。
2. 「臓器移植」「遺伝子操作」「遺伝子治療」「人ゲノム解読計画」は、まるで「不死」を実現しようとするかの如くである。一方「小児成人病」「アトピー性皮膚炎」「各種の免疫性疾患やアレルギー性疾患」などなどの驚くべき増大、なによりも「精神神経性疾患」の幾何級数的な増大、また、「ミナマタ」「カネミ油症」「スペイン油症」「アメリカ・トリプトファン事件＝EMS〈好酸球増加・筋肉痛症候群〉」などの加工食品や食品添加物による種々の傷害問題が生じている、また、輸入食品の農薬添加の健康への傷害が取り沙汰されている。ジェット機・自動車などによる空気の汚染、ゴルフ場からの農薬による水の汚染、フロンガスや各種の高度洗剤の蒸発に由来するオゾン層の破壊や地下水汚染、何よりも大量消費・使い捨て社会の土台にある知識や技術に対して、その運用・担当主体の態度が帯びているもの、これらの全ては、社会

的に健康を傷害する傾向を拡大しているのであり、健康と生存の為に適切な環境を求める事を、まるであざ笑っているかの如くである。

3. 社会的に健康を損なうように環境条件をますます劣悪化させているシステムやパワーに対抗してこれを克服するように行動するのは、本来、医療の役割では無い。しかし、何が、病を発生させたり、治癒しにくくしたり、悪化させているかという事を、積極的に暴いて、医療環境を良くして行くことは、医療の役割を遂行することである。
4. 「遺伝子治療」「人工臓器」「免疫抑制剤」などは、まるで不死を迫及していて、その事が可能となるかのように見えるやり方や考え方を、シンボライズしていると言えよう。生命の現象の全てが、隅から隅まで、具体的な「原子・分子レベル」において把握できたら、「不死が可能になる」と考えられるのか？「生物フォトン」の発生の仕組みと、フォトンの発生の度合いは訓練されれば意識によって変化させられている事実、この機構が説明でき立証される、つまり、「量子レベル」における「物質の運動」の生命局面での「構造とアルゴリズム」を立証し描き出す事、「意識」が「生物フォトン」の発生に影響を与えている事をも立証し描き出さなければならぬ。

☆語彙概念をアイマイにする事が持っている危険性

1. 動物の認識に共通する特徴
2. 言語の発達と認識の発達
3. 語彙概念の重要性
4. 観念の形成における語彙概念
5. アイマイな語からはアイマイな観念しか生まれない。

☆神秘主義への傾斜は危険である。

1. 神秘主義に移行する人々
2. 何故神秘主義に移行するのか
3. 扁鵲六不治論ほか

☆新しいパラダイムを提示できる可能性がある唯一の『伝統医学』としての東洋医学